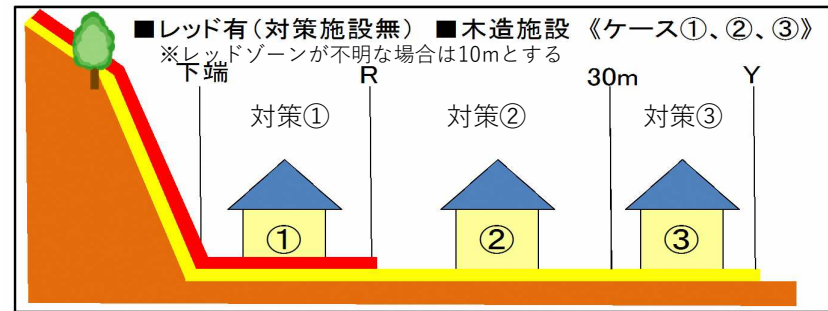


土砂災害警戒区域内に立地する避難場所の危険度評価マニュアルVer.1 【概要版】

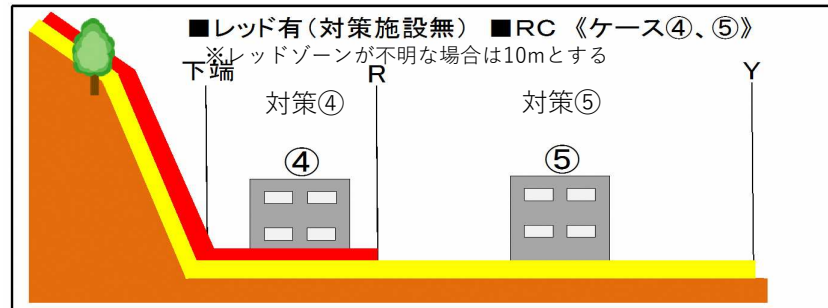
今後、イエローゾーン内に立地する避難場所をやむを得ず利用する際には、土砂災害に対する危険度に応じた避難場所の対策が必要と考えられます。そこで、本マニュアルではその対策について検討を行っており、その前提条件（本文2-21P）を十分考慮したうえで、今後の避難場所対策を実施する際の参考として下さい。

【がけ崩れ】危険度評価に応じた避難場所対策の方向性



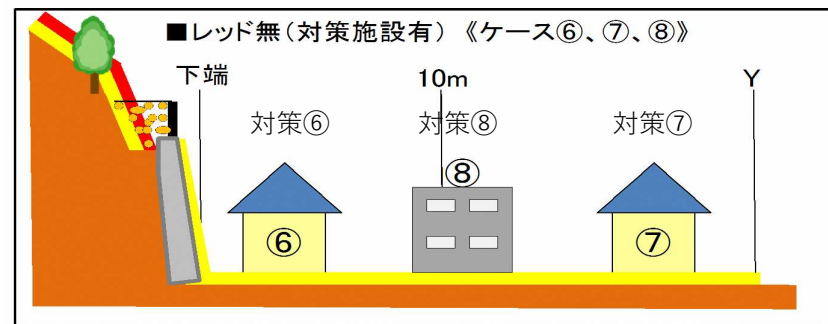
〈対策〉

- ①：案1:斜面对策(レッドゾーンを発生させない対応)を検討。
案2:建物対策(レッドゾーン対応)を検討。
※斜面の下端から10mの範囲は倒木対策を検討する。
- ②：斜面对策(レッドゾーンを発生させない対応)もしくは、建物対策(建物内への土砂侵入防止対策)を検討する。
- ③：共通対策項目とする。



〈対策〉

- ④：1階建ての場合は斜面对策(レッドゾーンを発生させない対応)もしくは、建物対策(レッドゾーン対応)を検討する。
- ⑤：共通対策項目とする。

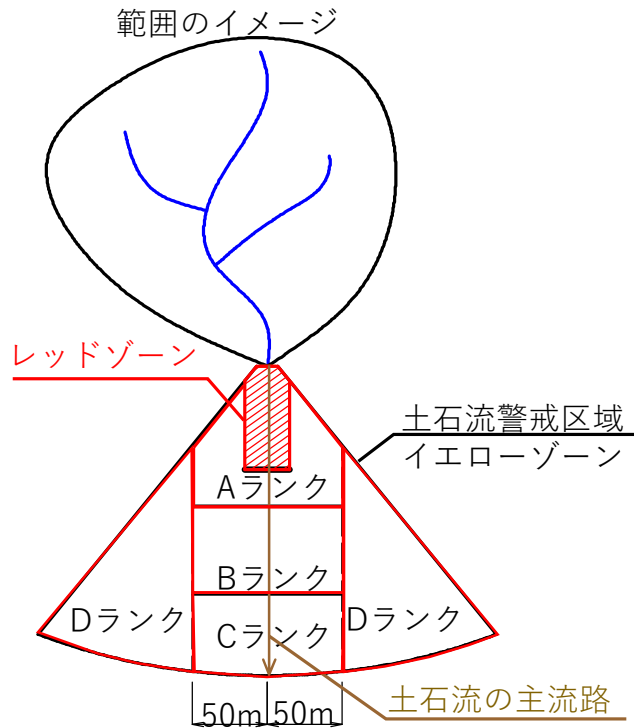


〈対策〉

- ⑥：斜面の下端から10mまでは倒木対策を検討する。
- ⑦：共通対策項目とする。
- ⑧：共通対策項目とする。

共通対策(ケース①～⑧)：条件付き利用(下記事項)を行うことを必須とする。

- ・山側(斜面側)から離れたスペースを利用する。
- ・可能な限り、山側の窓等(土砂侵入口)は塞ぐ。
- ・2階以上の施設は、1階利用を避ける(2階以上の利用を行う)。



危険度Aランク

〈対策〉
 案1：砂防堰堤の設置
 案2：建物対策の検討
 〈建物対策の内容〉

- ・レッドゾーン内建物対策（レッドゾーン対応）を検討する。
- ・レッドゾーン外の木造：建物内への土砂進入防止対策：H=2.0m以上、幅0.15m以上のコンクリート壁等を検討する。
- ・レッドゾーン外のRC1階：地面から高さ1.0m以内にある窓や入口を塞ぐ対策を検討する。

危険度Bランク

〈対策〉
 砂防堰堤もしくは建物対策。
 〈建物対策の内容〉

- ・木造：建物内への土砂進入防止対策：H=1.0m以上、幅0.15m以上のコンクリート壁等を検討する。
- ・RC1階建：地面から高さ1.0m以内にある窓や入口を塞ぐ対策を検討する。

危険度Cランク

〈対策〉
 共通対策項目とする。

危険度Dランク

〈共通対策〉：危険度A～D
 条件付き利用（下記事項）を行うことを必須とする。

- ・上流側（山側）や流路側から離れたスペースを利用する。
- ・2階以上の施設は、1階利用を避ける（2階以上の利用を行う）。

